

令和6年度
家庭教育に関するアンケート結果



栃木県PTA連合会
教育課題委員会

- 1 目 的 栃木県PTA連合会の基本方針である「子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせ、学校教育の更なる充実のために支援する体制を確立する」ために、状況を把握し、基礎資料として情報提供するとともに、保護者自らが子どもの生活習慣を振り返ることを目的とする。
- 2 調査対象 令和6年度 栃木県PTA連合会 全会員
- 3 調査方法 W e bによる回答（Google フォームによるアンケート）
- 4 調査期間 令和6年11月～12月
- 5 調査項目 以下のとおり。（各設問の選択肢は省略しています。）

（１）お子さんについて

- Q 1. お住まいの市町をお聞かせください。
- Q 2. お子さんは何年生ですか？
- Q 3. お子さんの平日の起床時間は何時ごろが多いですか？
- Q 4. お子さんの就寝時間は何時ごろが多いですか？

（２）朝ごはんについて

- Q 5. お子さんは朝ごはんを食べていますか？
- Q 6. 食べると回答された方は、主にどのような朝ごはんを食べていますか？
- Q 7. 食べると回答された方は、主に誰と一緒に朝ごはんを食べていますか？
- Q 8. お子さんに朝食を食べてもらうために、工夫していることはありますか？（複数回答可）

（３）運動・遊びについて

- Q 9. お子さんは一日の生活の中でどれくらい体を動かしていますか？（※外遊び・クラブ活動・歩くこと・階段の上り下り・家事のお手伝いなどを含む）

（４）家庭学習について

- Q 1 0. お子さんが家庭や塾で学習に取り組んでいる時間は、一週間平均で一日どれくらいですか？
- Q 1 1. お子さんは家で計画的に学習に取り組んでいますか。

（５）電子機器について

- Q 1 2. お子さんはどのような電子機器をお持ちですか？（複数回答可）
- Q 1 3. お持ちと回答された方は、それらの電子機器を一日の中でどれくらいお使いですか？
- Q 1 4. 携帯電話・スマートフォンをお持ちと回答された方は、何年生の時からお使いですか？
- Q 1 5. 電子機器を持っている持っていないにかかわらず、お子さんとネットの利便性や危険性について話し合いをしたことはありますか？
- Q 1 6. お子さんはネットトラブルに巻き込まれたことはありますか？
- Q 1 7. 巻き込まれた・巻き込まれそうになったと回答された方は、具体的にはどのようなトラブルですか？（複数回答可）

（６）読書について

- Q 1 8. お子さんは、1週間でおよそ何時間くらい本（電子書籍を含み、マンガは除きます）・新聞・雑誌を読みますか。
- Q 1 9. 保護者の方にお伺いします。あなたは、1週間におおよそ何時間くらい本（電子書籍を含み、マンガは除きます）・新聞・雑誌を読みますか。
- Q 2 0. 保護者の方にお伺いします。あなたは、お子さんと本に関する会話（本の感想、本のすすめ合い、読み聞かせなど）をすることがありますか。

（７）その他

- Q 2 1. 保護者の方にお伺いします。あなたは、お子さんをほめていますか。
- Q 2 2. 保護者の方にお伺いします。Q 2 1 で1・2と答えた方は、主にどんなことをほめていますか。
- Q 2 3. 保護者の方にお伺いします。あなたは、お子さんと「お子さんの将来の夢や目標」について話したことはありますか。

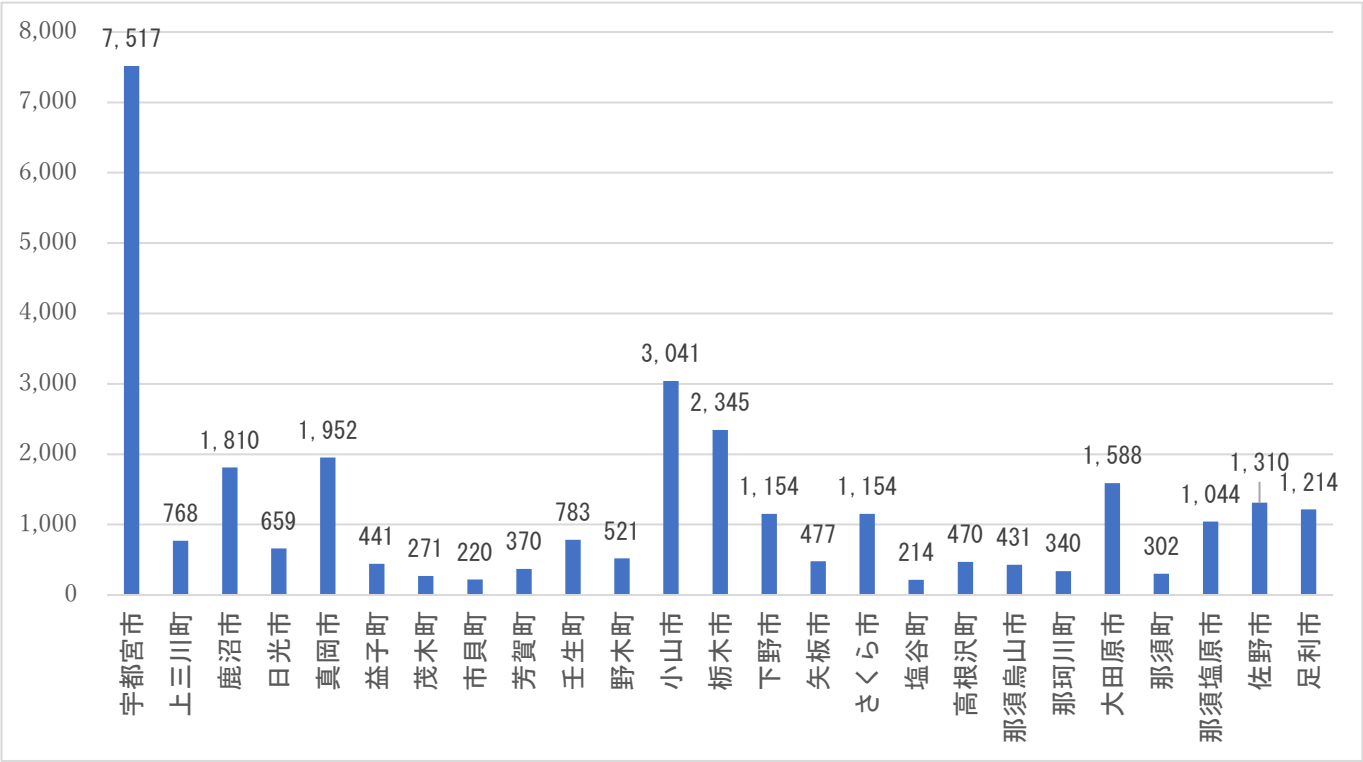
6 回答数

地区名	市町名	学 年									市町別 合計	地区別 合計	地区別 割合
		小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3			
宇河	宇都宮市	845	835	934	932	862	904	735	778	692	7,517	8,285	27.3%
	上三川町	84	64	68	79	66	85	105	107	110	768		
上都賀	鹿沼市	168	212	193	214	220	237	192	195	179	1,810	2,469	8.1%
	日光市	94	69	71	90	82	88	72	56	37	659		
芳賀	真岡市	173	208	196	222	224	247	251	212	219	1,952	3,254	10.7%
	益子町	49	46	40	57	41	59	45	67	37	441		
	茂木町	22	15	19	25	24	28	44	51	43	271		
	市貝町	34	32	23	24	21	26	15	19	26	220		
	芳賀町	51	48	42	40	40	54	28	33	34	370		
下都賀	壬生町	77	74	89	81	86	78	117	100	81	783	7,844	25.8%
	野木町	47	45	59	63	49	52	84	71	51	521		
	小山市	343	318	316	308	323	304	399	368	362	3,041		
	栃木市	233	240	234	242	252	270	265	309	300	2,345		
	下野市	97	107	101	113	117	116	172	179	152	1,154		
塩谷 南那須	矢板市	66	59	39	60	64	40	55	48	46	477	3,086	10.2%
	さくら市	134	133	131	165	151	168	92	83	97	1,154		
	塩谷町	12	16	21	23	18	24	26	36	38	214		
	高根沢町	42	41	40	66	40	48	72	63	58	470		
	那須烏山市	35	29	20	34	42	38	72	84	77	431		
	那珂川町	36	35	38	50	47	56	27	20	31	340		
那須	大田原市	137	122	134	137	152	130	241	262	273	1,588	2,934	9.7%
	那須町	24	33	28	30	35	34	43	40	35	302		
	那須塩原市	130	115	116	122	118	148	110	95	90	1,044		
安足	佐野市	134	114	100	134	148	159	182	175	164	1,310	2,524	8.3%
	足利市	116	127	160	130	144	129	165	126	117	1,214		
全県	合計	3,183	3,137	3,212	3,441	3,366	3,522	3,609	3,577	3,349	30,396	30,396	100%

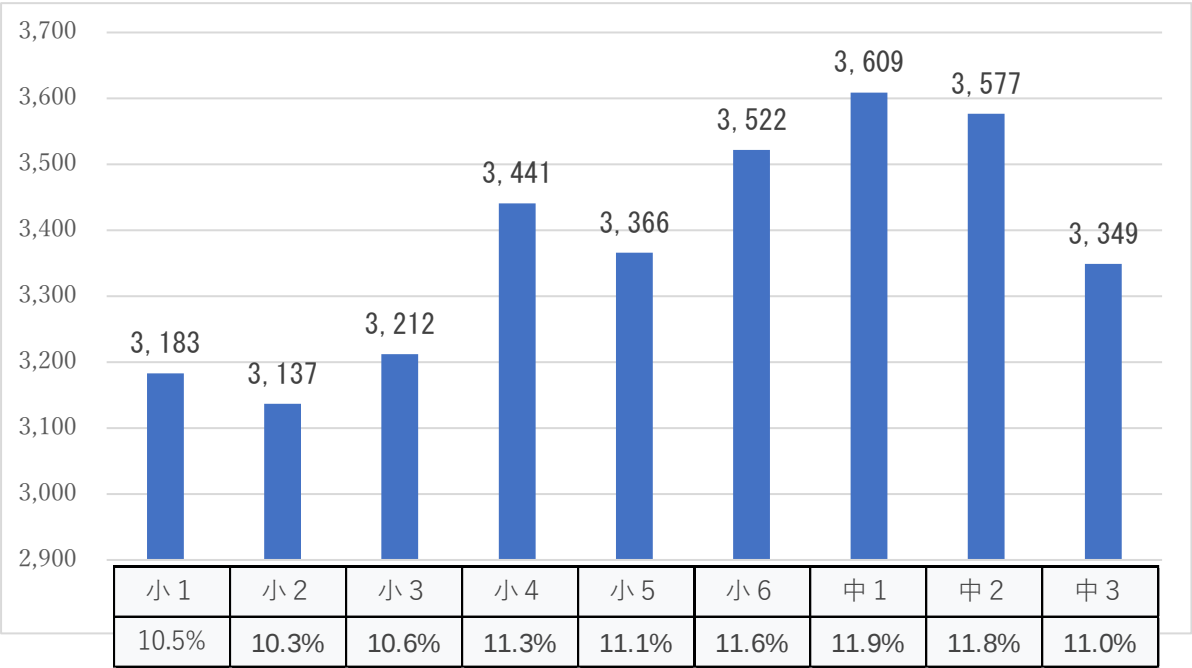
7 集計結果及び考察

(1) お子さんについて

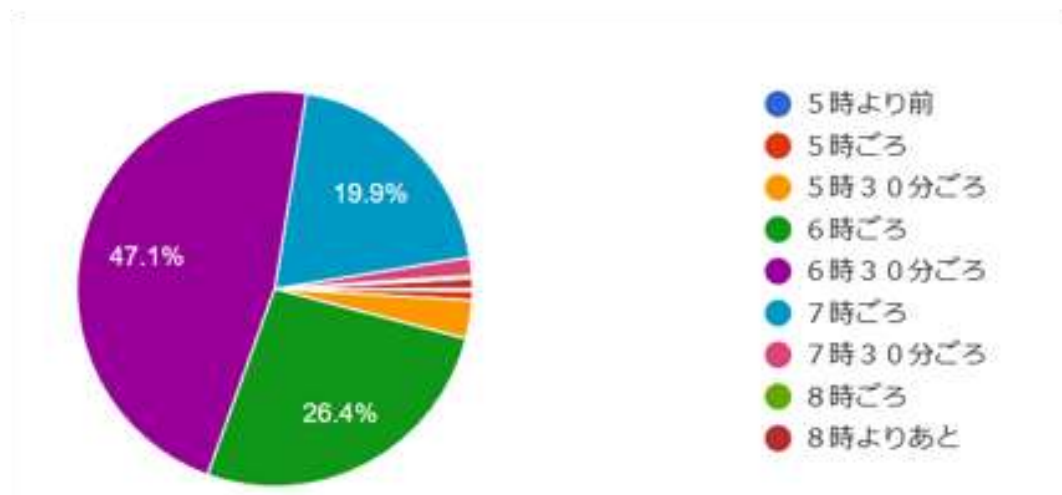
Q 1.お住まいの市町をお聞かせください。



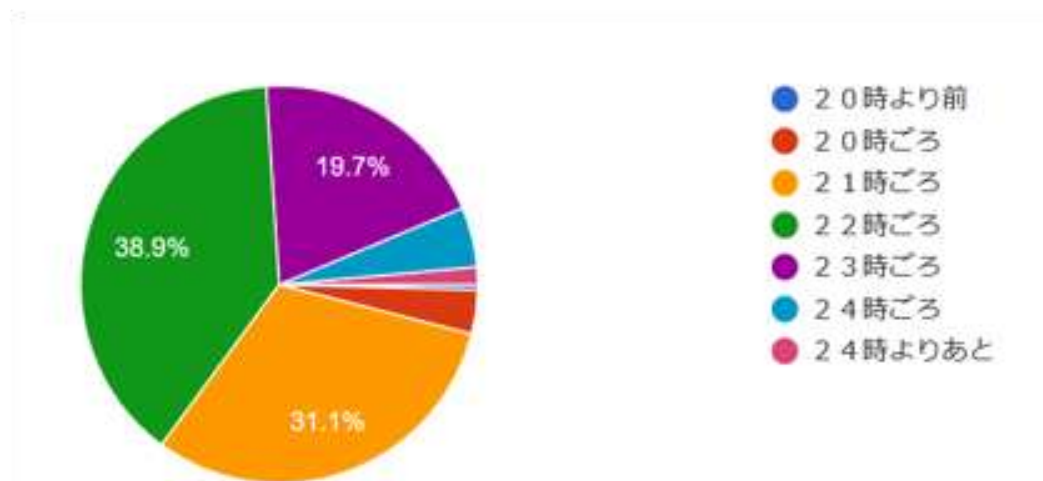
Q 2.お子さんは何年生ですか？



Q3.お子さんの平日の起床時間は何時ごろが多いですか？



Q4.お子さんの就寝時間は何時ごろが多いですか？



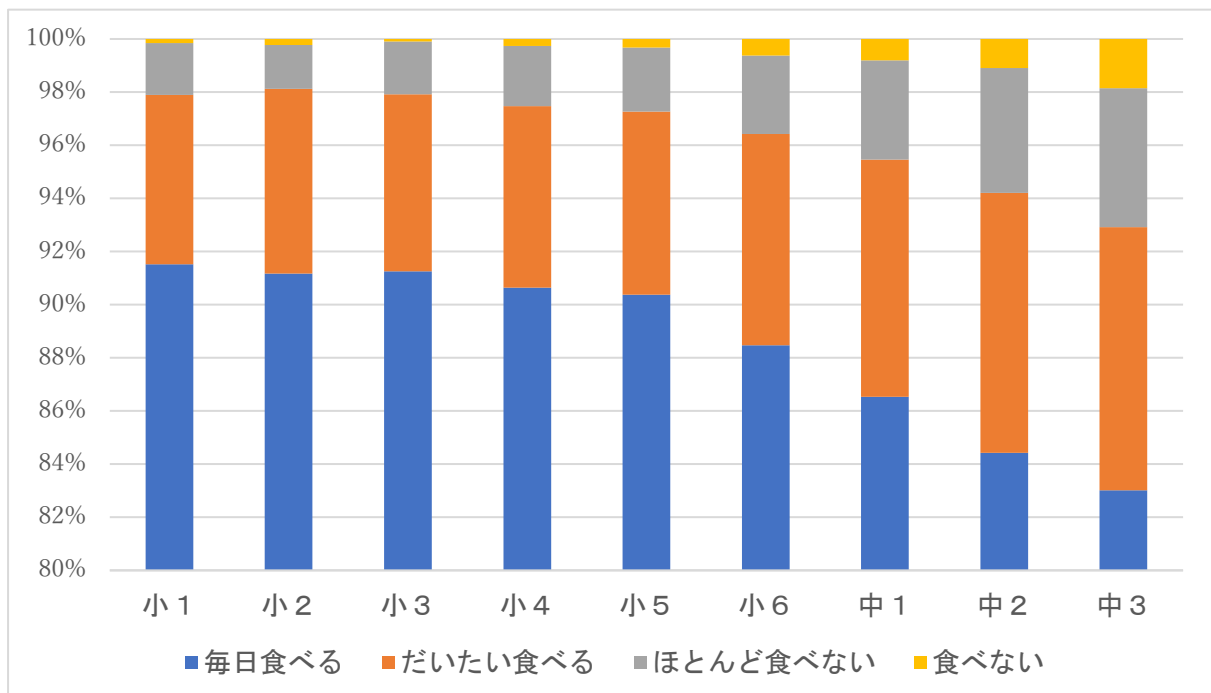
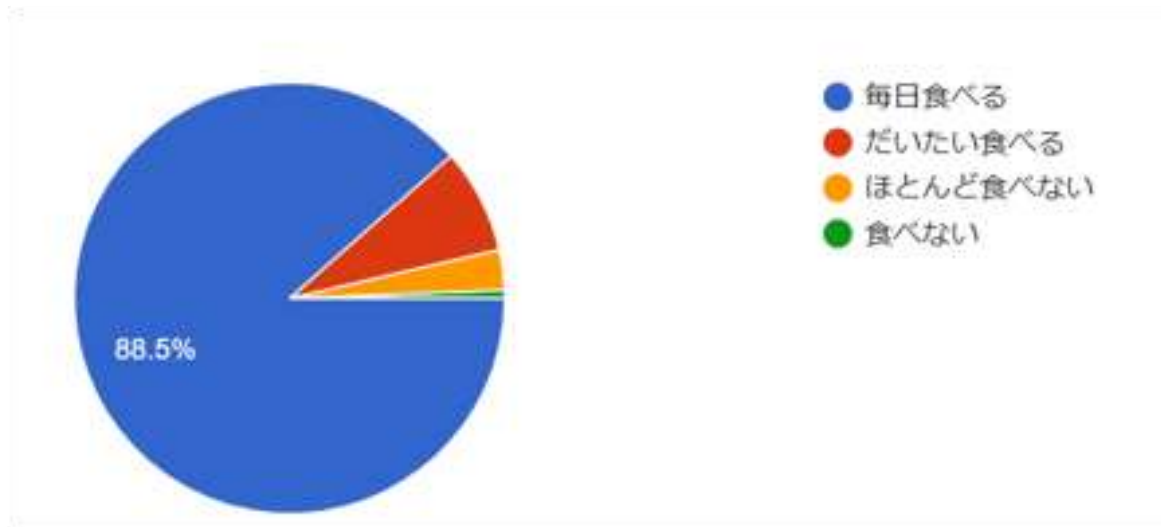
お子さんの平日の起床時間に関する調査では、『6時30分ごろ』が最も多く47.1%、次いで『6時ごろ』が26.4%、『7時ごろ』が19.9%という結果でした。多くのご家庭で早起きを心掛けていることがうかがえます。朝の光を浴びることでセロトニンが分泌され、脳と体が覚醒しやすくなり、心のバランスも整いやすくなります。また、体内時計のリズムが整うことで、夜の質の良い睡眠につながります。

一方、平日の就寝時間に関する調査では、『22時ごろ』が最も多く38.9%、次いで『21時ごろ』が31.1%、『23時ごろ』が19.7%という結果でした。比較的規則的な就寝習慣を保っているご家庭が多いことがわかります。睡眠は寝入り直後の深い眠りの間に成長ホルモンが分泌され、体の成長を促します。また、後半の浅い眠りでは日中の出来事が整理され、新しい知識や運動技能が定着します。

健康的な生活リズムを保つためには、早寝早起きと適切な睡眠時間の確保が大切です。引き続き、学校と家庭が連携して子どもたちの生活リズムを支援してまいりましょう。

(2) 朝ごはんについて

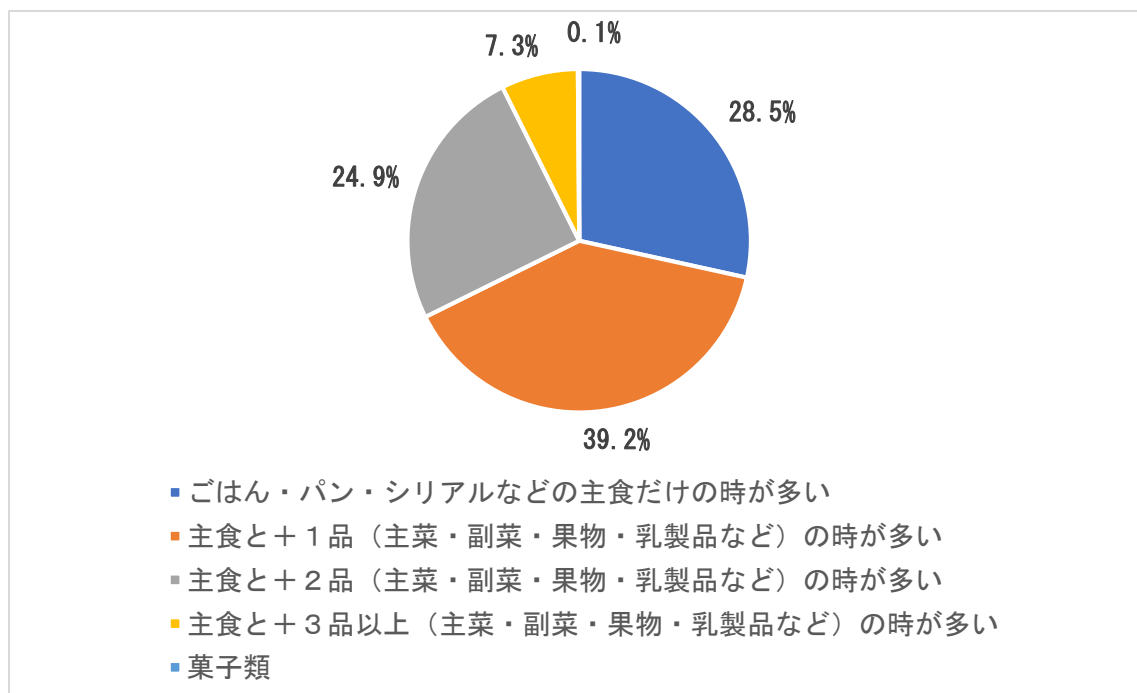
Q5.お子さんは朝ごはんを食べていますか？



上のグラフより、全体では 85.5%の家庭で毎朝食を摂る習慣があり、90%以上の家庭で朝食が提供されていることがわかります。

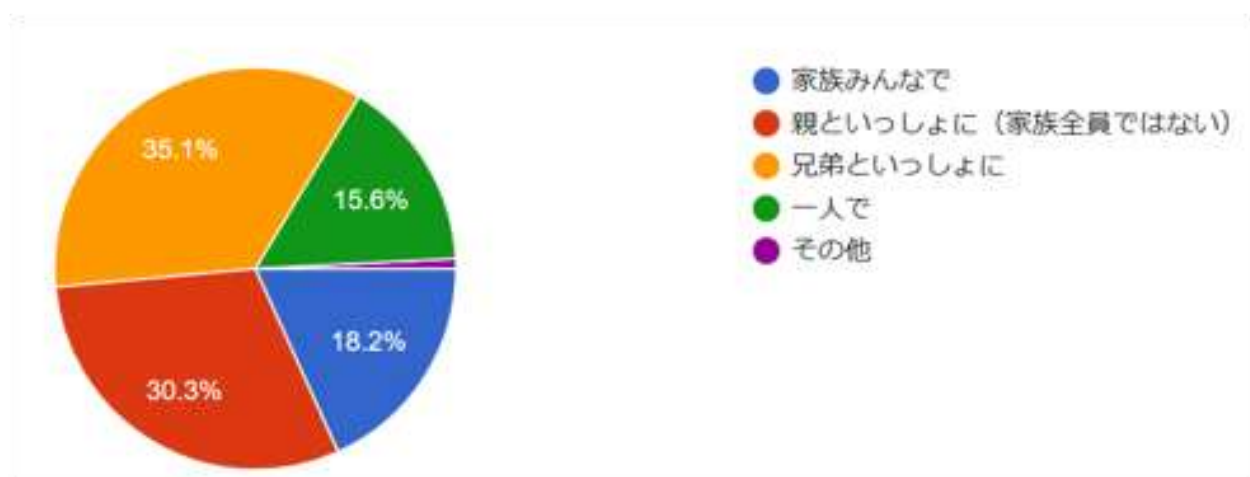
学年別に見ると、学年が進むに連れて、「ほとんど食べない」「食べない」の割合が高くなっていることが分かります。

Q6.食べると回答された方は、主にどのような朝ごはんを食べていますか？

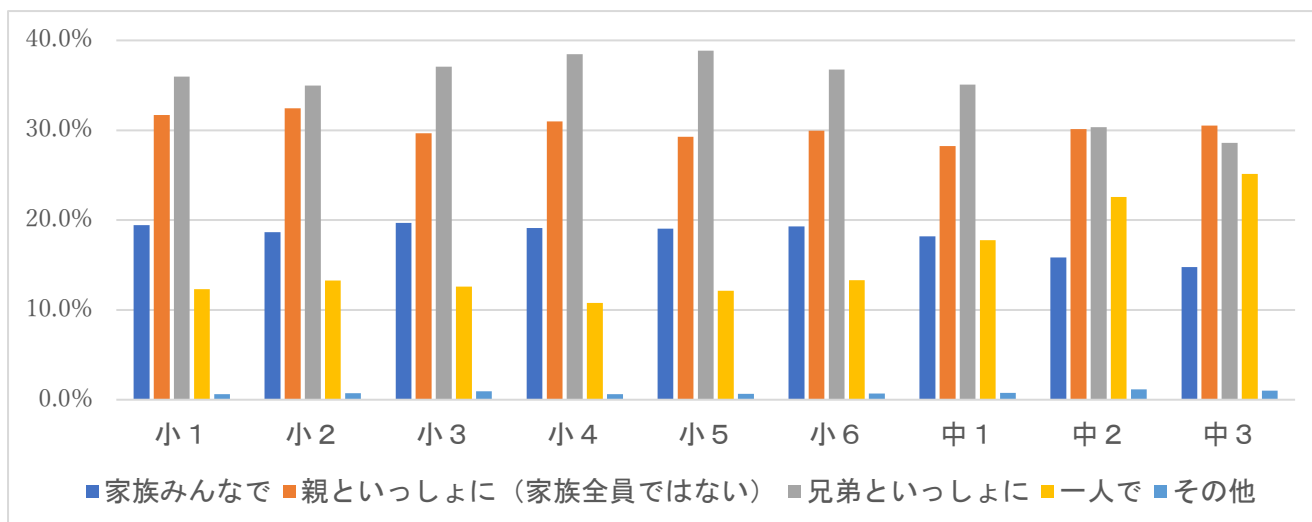


朝食の内容としては、約 60%の家庭が主菜と副菜を組み合わせたバランスの取れた食事を意識しており、栄養面に対する配慮がうかがえます。一方で、約 30%が主食のみを選択しており、忙しい朝に簡便さを重視していると考えられます。家庭教育の一環として、栄養バランスを考慮した食事の重要性を引き続き伝えていくことが求められます。

Q7.食べると回答された方は、主に誰と一緒に朝ごはんを食べていますか？



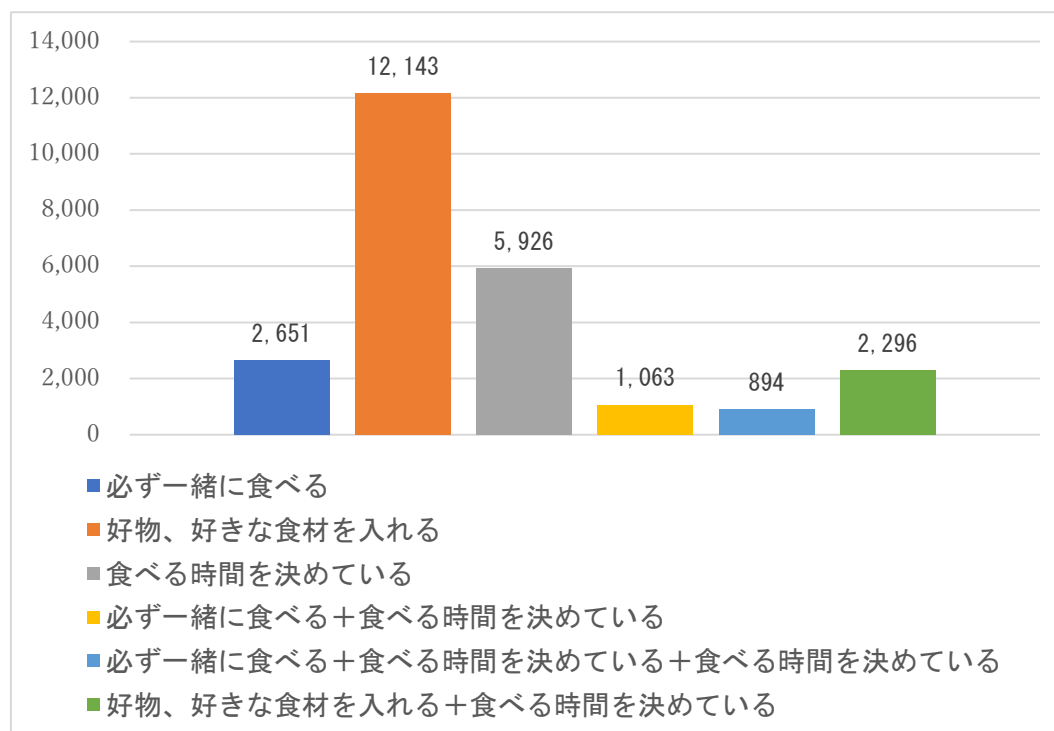
全体の結果を見ると、朝食を「兄弟と一緒に食べている」家庭が最も多く、次いで「家族全員ではないが家族と一緒に」の割合が高いことが分かります。全体的に、家族や兄弟と共に朝食をとることが一般的であり、一人で食べる家庭は少数派です。



学年別に見てみると「一人で」の割合が、中学生になると学年が進むに連れて高くなっていることが分かります。

これからの施策やサポートにおいて、家族や兄弟との朝食時間の大切さを意識した支援が求められると考えられます。

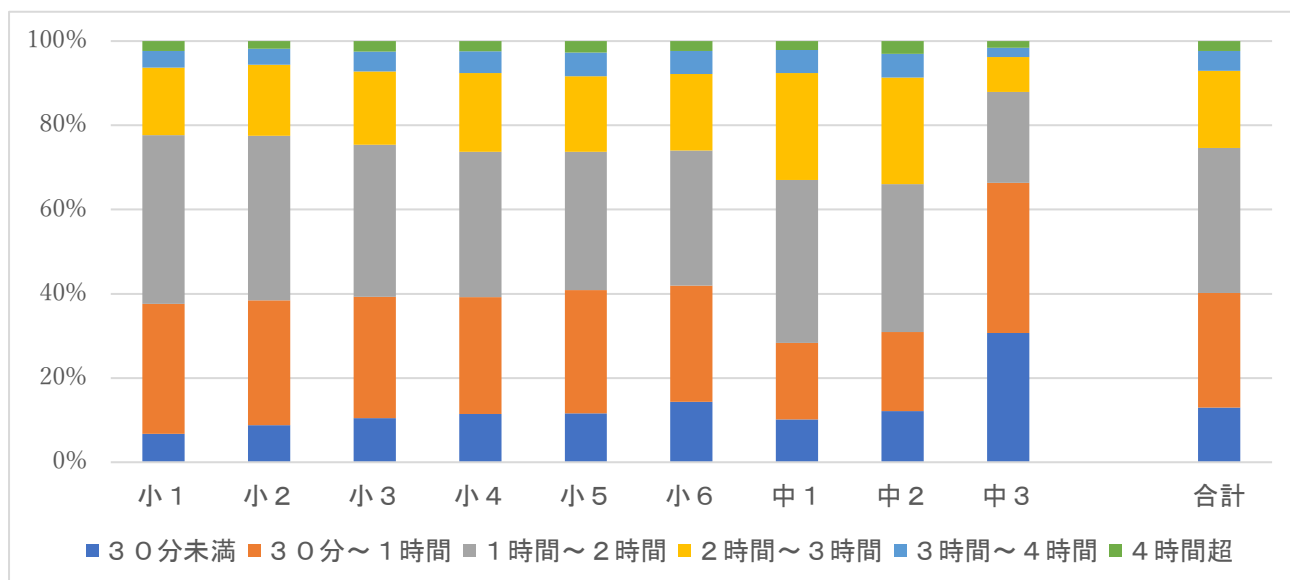
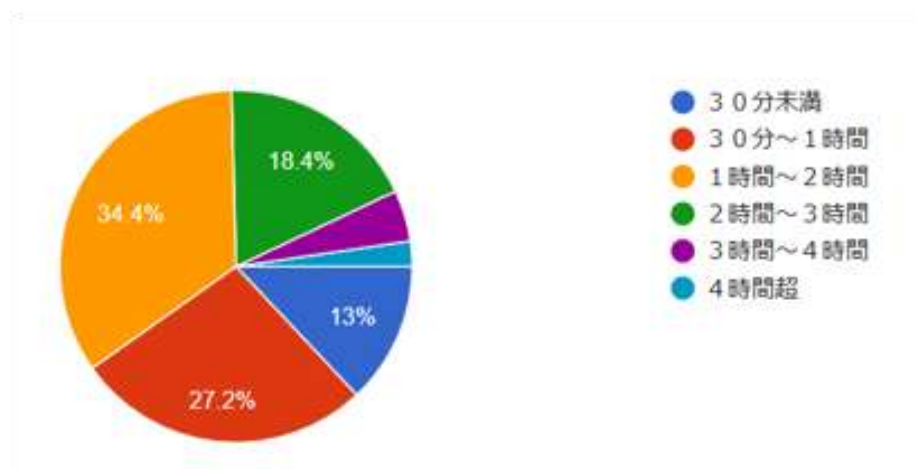
Q8.お子さんに朝食を食べてもらうために、工夫していることはありますか？（複数回答可）



「好物、好きな食材を朝食に提供する」という回答が最も多く、次に「食べる時間を決めている」, 「必ず一緒に食べる」という回答が続きました。保護者が子どもに対して、無意識ながらも朝食への大切さを伝えたいという考えが見えます。まずは、しっかり朝食をとることが大切だと考えます。

(3) 運動・遊びについて

Q9.お子さんは一日の生活の中でどれくらい体を動かしていますか？（※外遊び・クラブ活動・歩くこと・階段の上り下り・家事のお手伝いなどを含む）

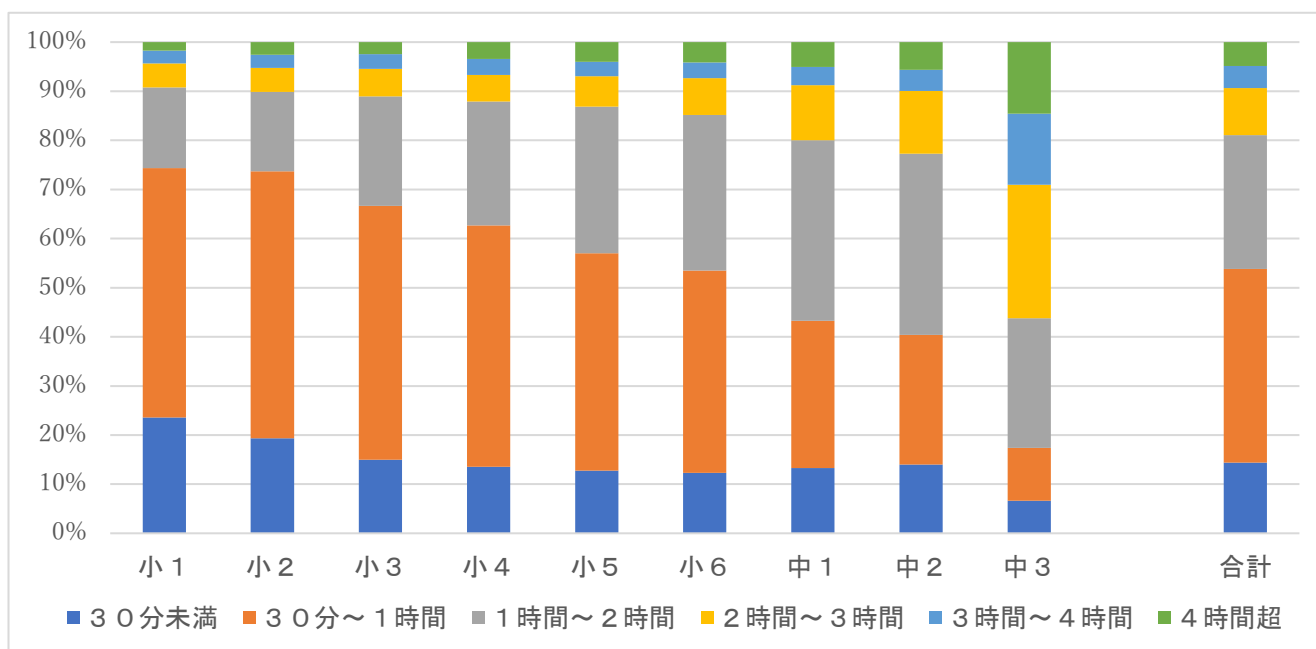
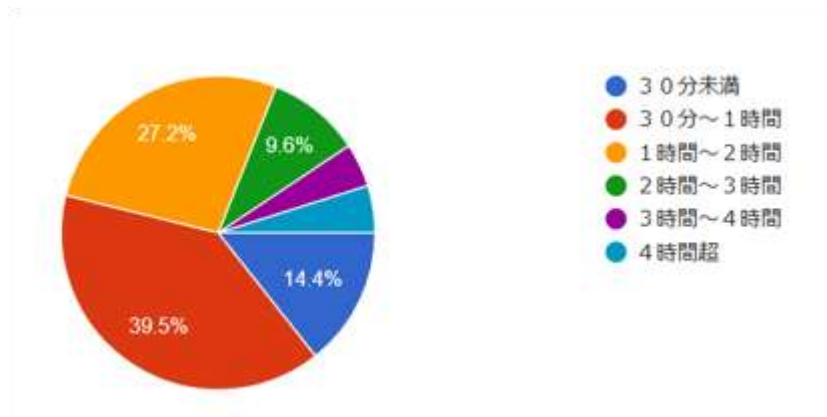


このアンケート結果から、多くのお子さんが1時間～2時間程度の身体活動を行っていることが分かります。特に「30分～1時間」の割合も高く、日常的に適度な運動ができている様子が伺えます。ただし、さらに長時間の運動ができるような支援があれば、健康面でのメリットがさらに大きくなるかもしれません。運動機会を増やす工夫が求められます。

学年別に見ると、中学1・2年生では「2～3時間」の割合が高くなり部活動の時間によるものと考えられます。また、中3になると「30分未満」の割合が顕著となり、受験等により学習時間にあてていることが考えられます。

(4) 家庭学習について

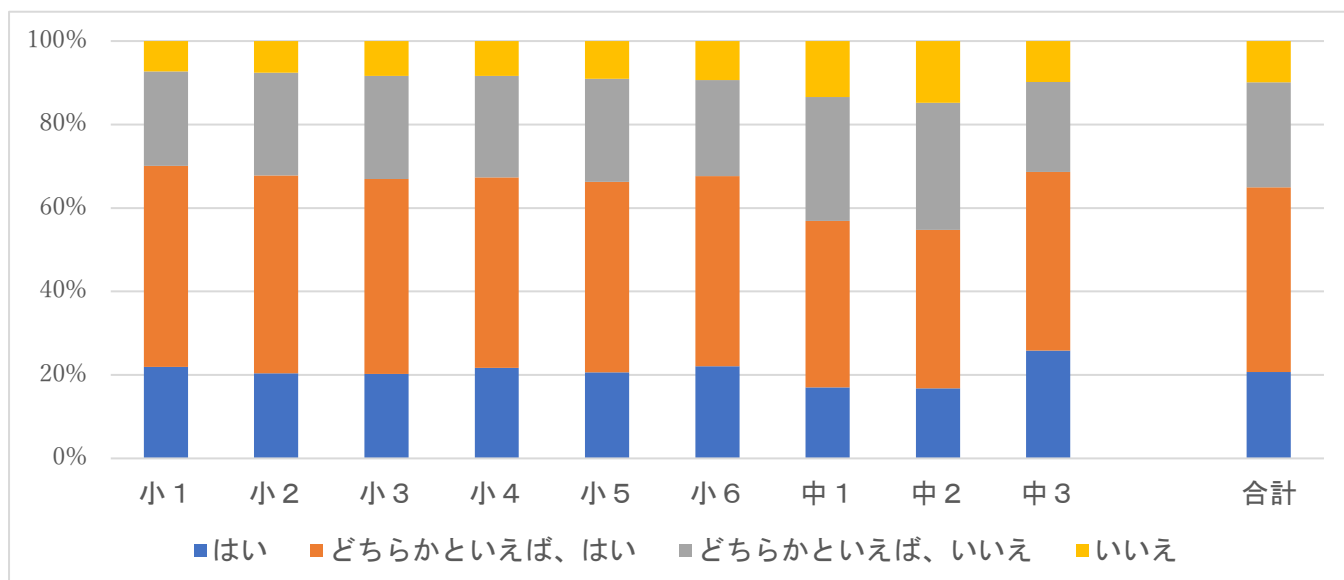
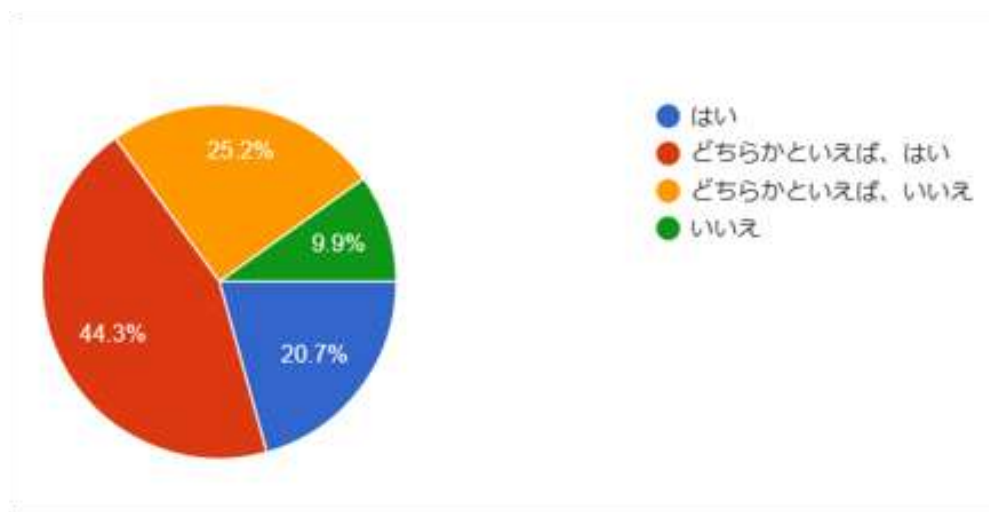
Q10. お子さんが家庭や塾で学習に取り組んでいる時間は、一週間平均で一日どれくらいですか？



ここ最近の児童、生徒たちは学習習慣(宿題、課題)などがしっかり身についていると感じてます。

学年別の学習時間を見てみると、学年が上がることに学習時間も増えてることが分かります。特に、中学3年生の学習時間の増加が顕著です。

Q 1 1.お子さんは家で計画的に学習に取り組んでいますか。

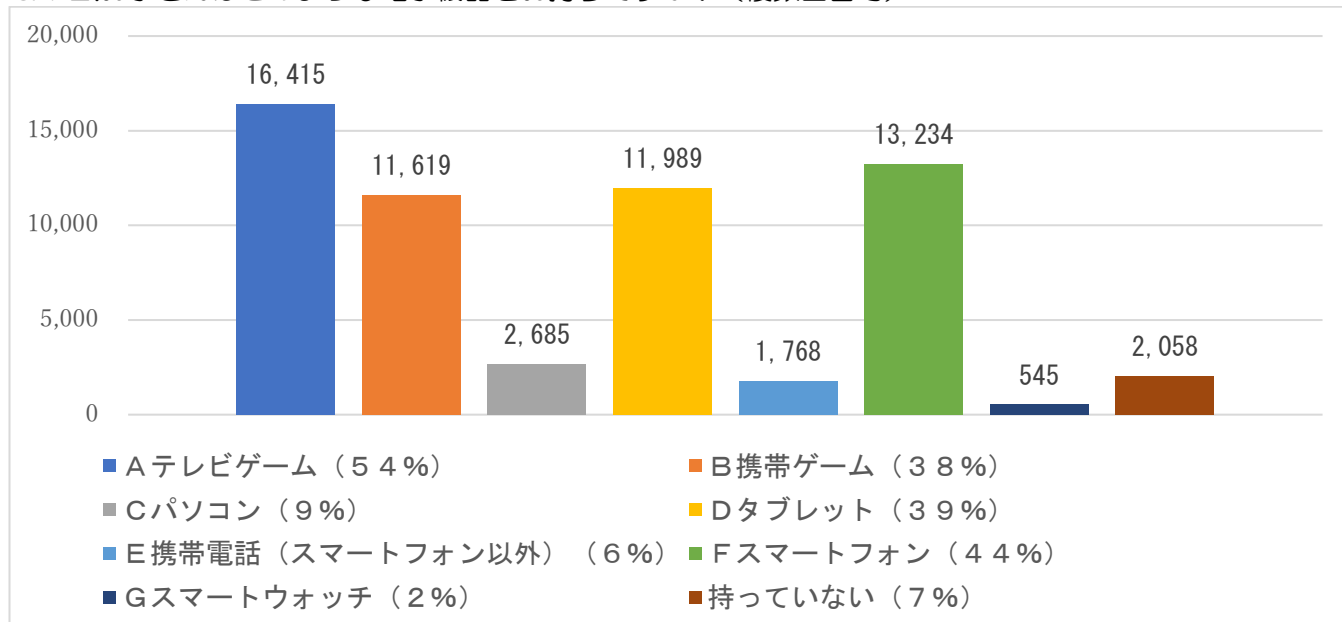


学習の計画性については、「はい (20.7%)」と「どちらかといえば、はい (44.3%)」を併せて、おおよそ3分の1を占めており、親の目から見ても学習の習慣がしっかり身についていると感じます。

学年別に見ると、中学生になると「はい」と「どちらかといえば、はい」の割合が小学生に比べ低くなっています。中学生になったことで、お子さんの主体性を考え、親の見方が変わってきていることが考えられます。中学3年生については、受験への意識が高まり自主的な取組が見られているものと考えられます。

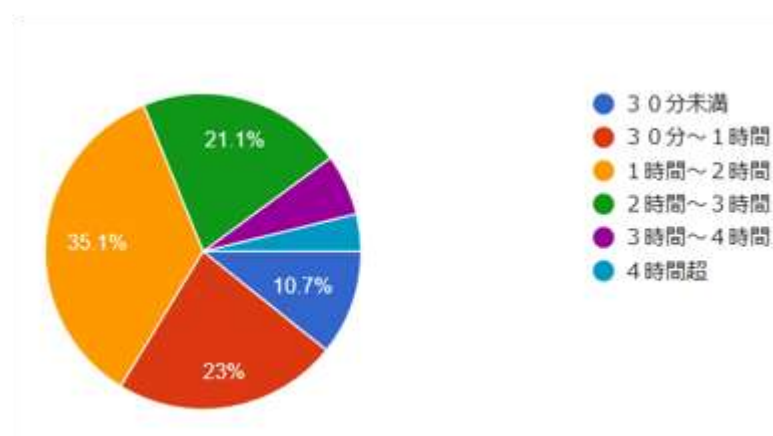
(5) 電子機器について

Q1 2.お子さんはどのような電子機器をお持ちですか？（複数回答可）



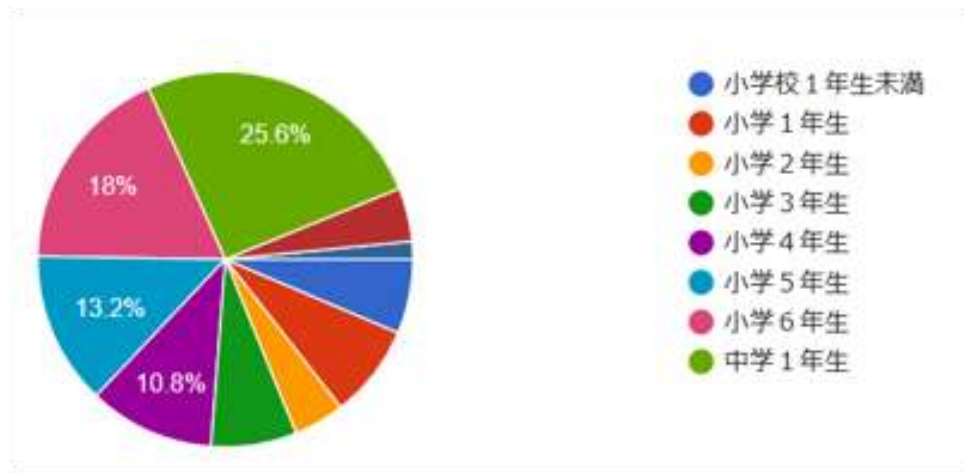
お子さんの所有する電子機器は、テレビゲームが最も多く 54%、次いでスマホが 44%、タブレットが 39%という結果でした。テレビゲームは幼少期から家族で楽しんだりする場合も想定できます。2 位のスマホについては、令和 2 年度の栃木県総合教育センターのデータによると小学生 22.4%、中学生 56.6%という結果がありますが、今回の調査結果では、小学生が 25.5%、中学生が 77.6%となり、調査方法が違うので一概に比較はできませんが、所持率の上昇がうかがえます。携帯を持たせる保護者の責任も大きくなっていると考えます。

Q1 3.お持ちと回答された方は、それらの電子機器を一日の中でどれくらいお使いですか？



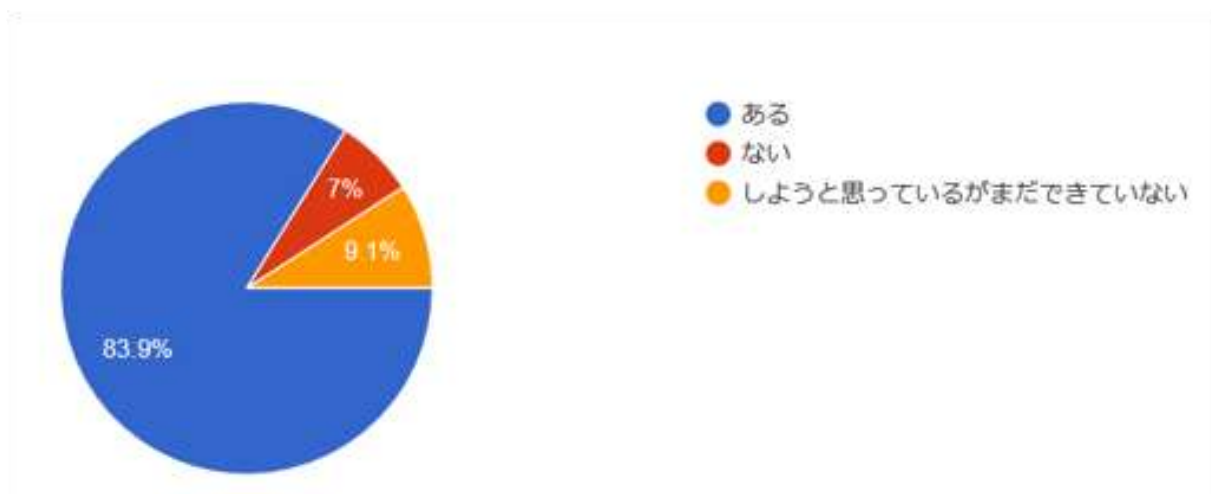
1 日の中での電子機器の使用時間は、1～2時間が 35.1%、30 分～1時間が 23%であり、2 時間未満が 68.7%の結果でした。しかし 4 時間超のお子様も数%いて、依存性が心配となりそうです。

Q14.携帯電話・スマートフォンをお持ちと回答された方は、何年生の時からお使いですか？



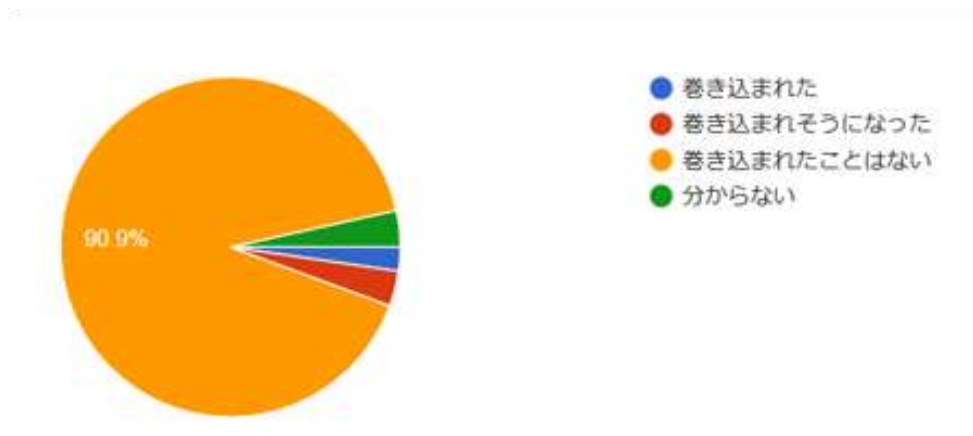
最も多かったのは中学1年生の25.6%、次いで小学6年生の18%でした。
進学や習い事などを始めるタイミングで持たせている。
そのため行動範囲が広がり、親元を離れる機会が増えるからではないかと思われます。

Q15.電子機器を持っている持っていないにかかわらず、お子さんとネットの利便性や危険性について話し合いをしたことはありますか？



このアンケート結果から、ほとんどの保護者が子どもとネットの利便性や危険性について話し合っていることがわかります。しかし、まだ話し合いをしていない保護者も一定数いるため、今後さらに意識を高めていくことが重要です。教育機会を提供し、ネットリテラシー向上に向けたサポートを強化する必要があります。

Q16.お子さんはネットトラブルに巻き込まれたことはありますか？

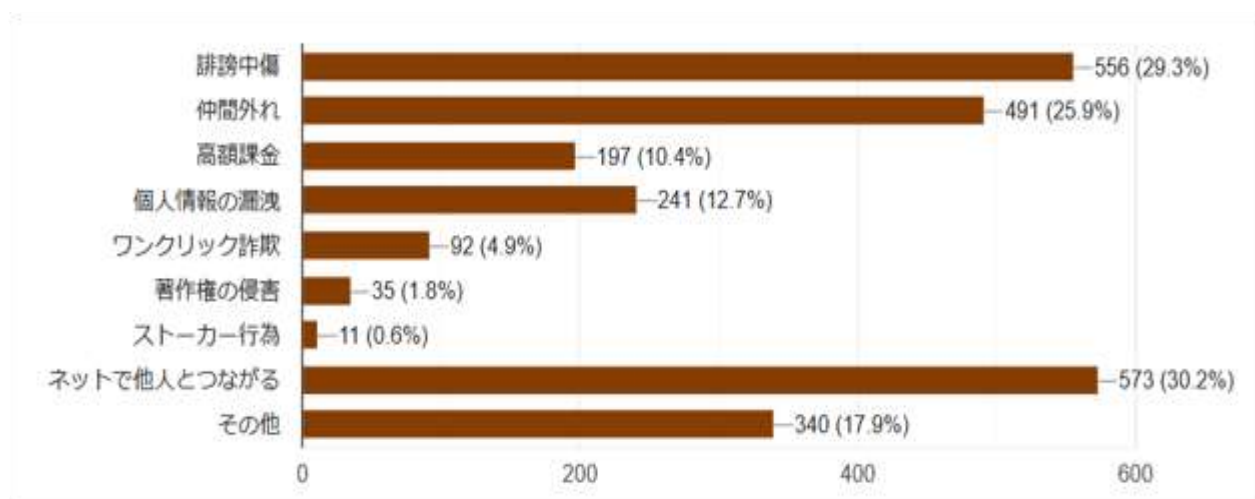


90.9%のご家庭でトラブルに巻き込まれていない事に安心しました。

ただし、分からないという答えも3%程あることに危機感を覚えます。

ネットトラブルを防ぐため、保護者がどのように関わっていったらいいかをご家庭で話し合うことが必要だと感じます。

Q17.巻き込まれた・巻き込まれそうになったと回答された方は、具体的にはどのようなトラブルですか？
(複数回答可)

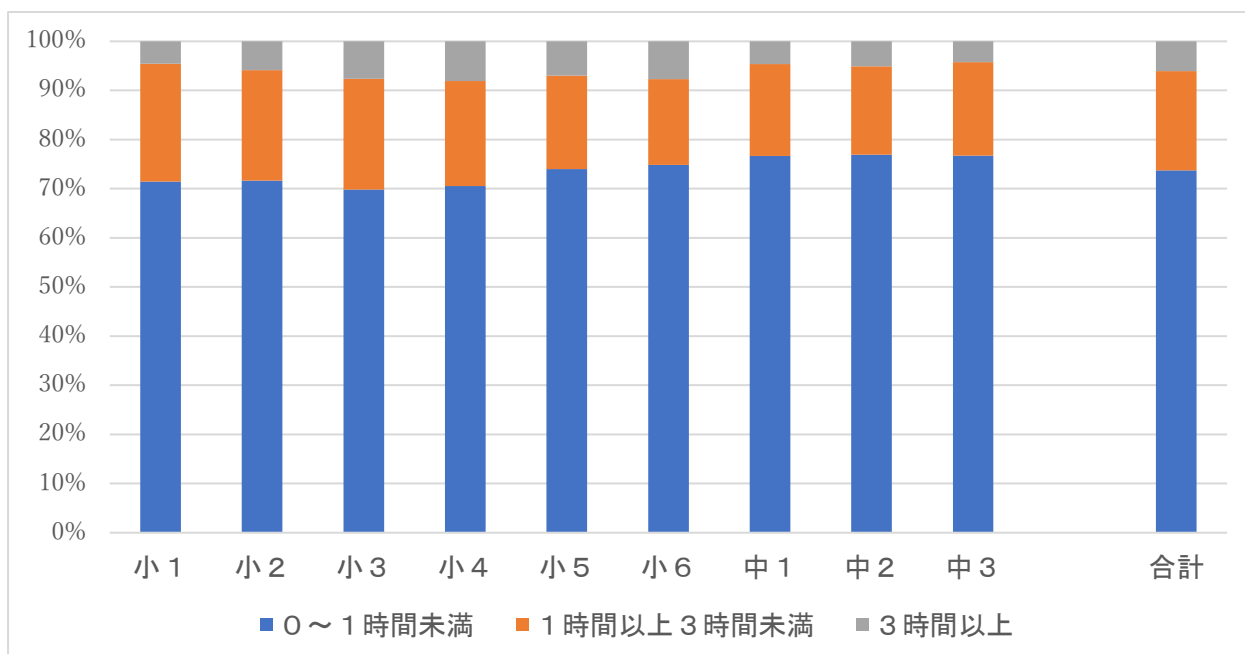
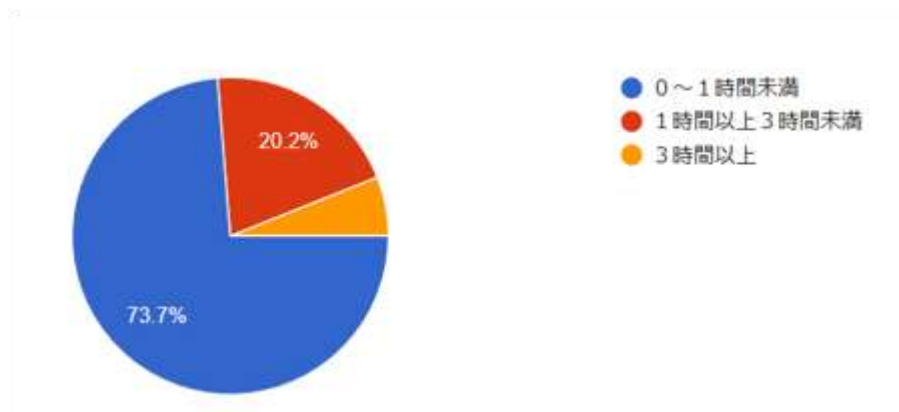


ネットトラブルの内容として、誹謗中傷（29.3%）、仲間外れ（25.9%）いじめや精神障害にもつながりかねません。合わせて 55.2%と過半数でありネットトラブルとして一番身近なことなのかもしれません。

また、高額課金（10.4%）ワンクリック詐欺（4.9%）などの金銭トラブルや、著作権の侵害（1.8%）ストーカー行為（0.6%）などの犯罪に関わるトラブルも起きていることが分かります。

(6) 読書について

Q18.お子さんは、1週間でおよそ何時間くらい本（電子書籍を含み、マンガは除きます）・新聞・雑誌を読みますか。

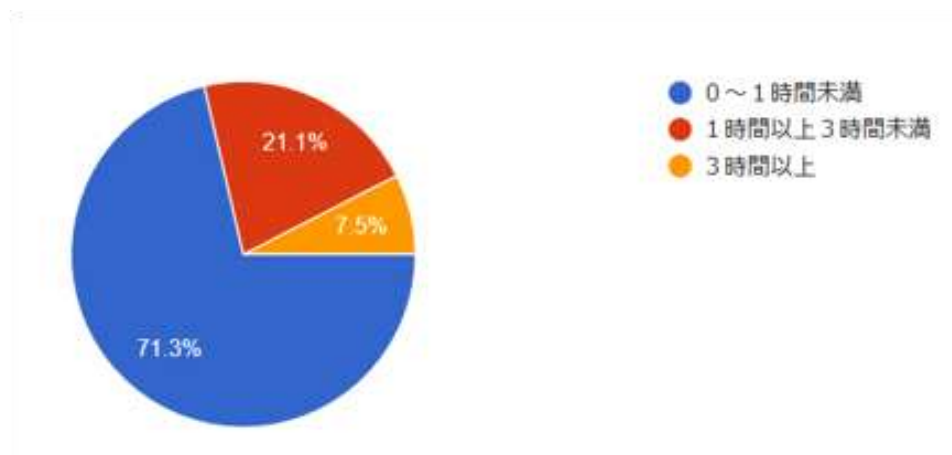


アンケート結果から、お子さんの読書時間は多くの家庭で1時間未満にとどまっていることが分かります。約7割の家庭が0～1時間未満という結果を示しております。

学年別では、低学年の方が「1時間以上3時間未満」割合が高く、「3時間以上」は小学校の中高学年が他と比較し高いことが分かります。

読書時間の増加には家庭での読書習慣づくりや、興味を引く書籍・コンテンツの提供が重要であると考えられます。

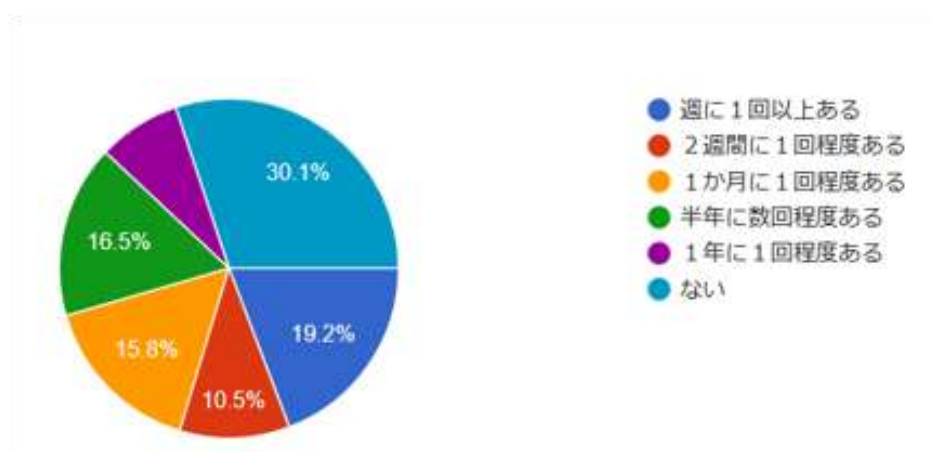
Q19. 保護者の方にお伺いします。あなたは、1週間におおよそ何時間くらい本（電子書籍を含み、マンガは除きます）・新聞・雑誌を読みますか。



保護者の多くが1週間に1時間未満の読書時間を持っていることが分かります。これは、忙しい日常生活の中で読書の時間が限られていることを示唆しています。逆に、一定の読書時間を確保している保護者も一定数いることから、読書習慣を促進する活動の必要性があると考えられます。

また、子どもの読書時間の比率とも相似していることから、子どもの読書習慣には保護者の読書の習慣化が効果的と思われる。

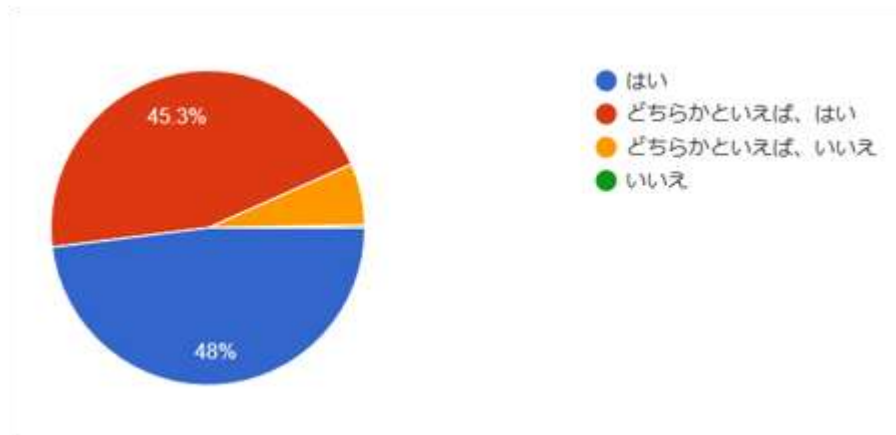
Q20. 保護者の方にお伺いします。あなたは、お子さんと本に関する会話（本の感想、本のすすめ合い、読み聞かせなど）をすることがありますか。



お子さんと本に関する会話をする機会は多様であり、30%以上の保護者が会話をしないと回答している一方で、週に1回以上の頻度で会話がある保護者も約20%を占めています。読書の重要性を共有する機会が今後さらに増えることが望まれます。

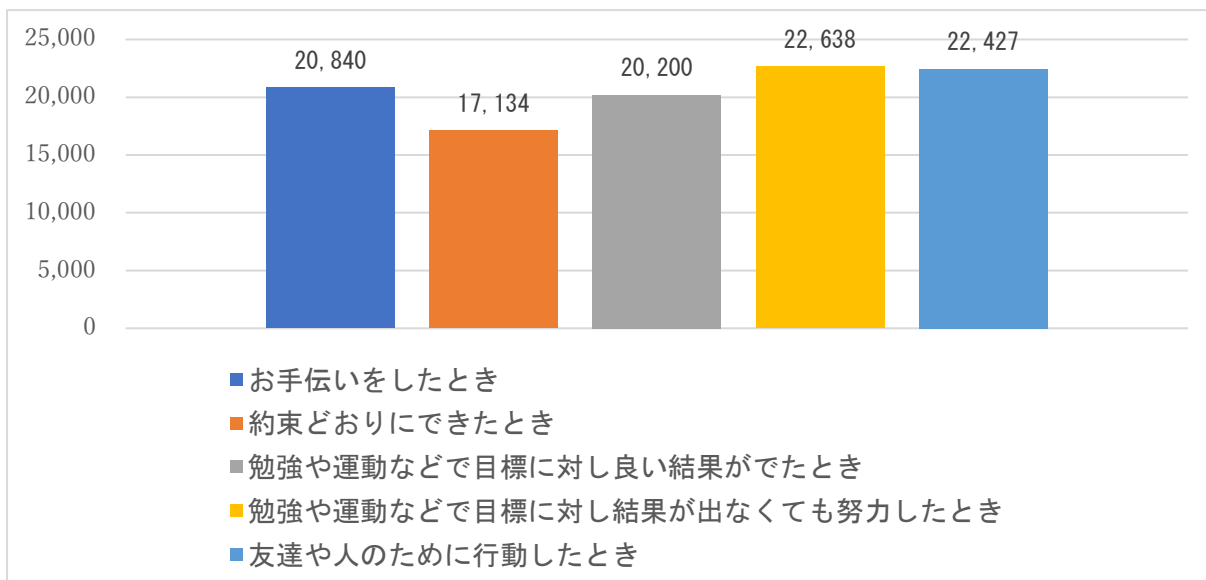
(7) その他

Q21.保護者の方にお伺いします。あなたは、お子さんをほめていますか。



このアンケート結果から、お子さんをほめている保護者が多数を占めていることがわかります。48%の方が「はい」と回答し、さらに 45.3%が「どちらかといえば、はい」と答えています。この結果は、保護者が子どもの成長を支えるために積極的に褒めることを意識していることを示しています。今後は、褒めるタイミングや方法を工夫することで、より一層の支援が期待できるでしょう。

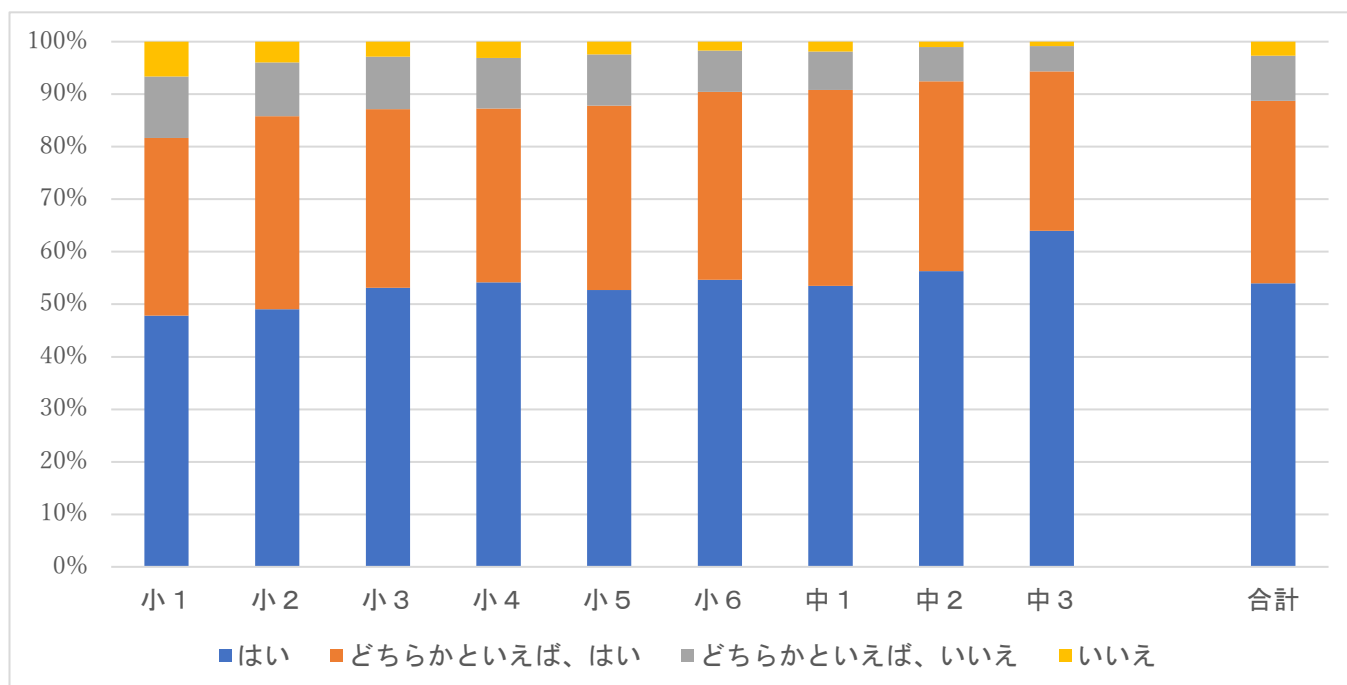
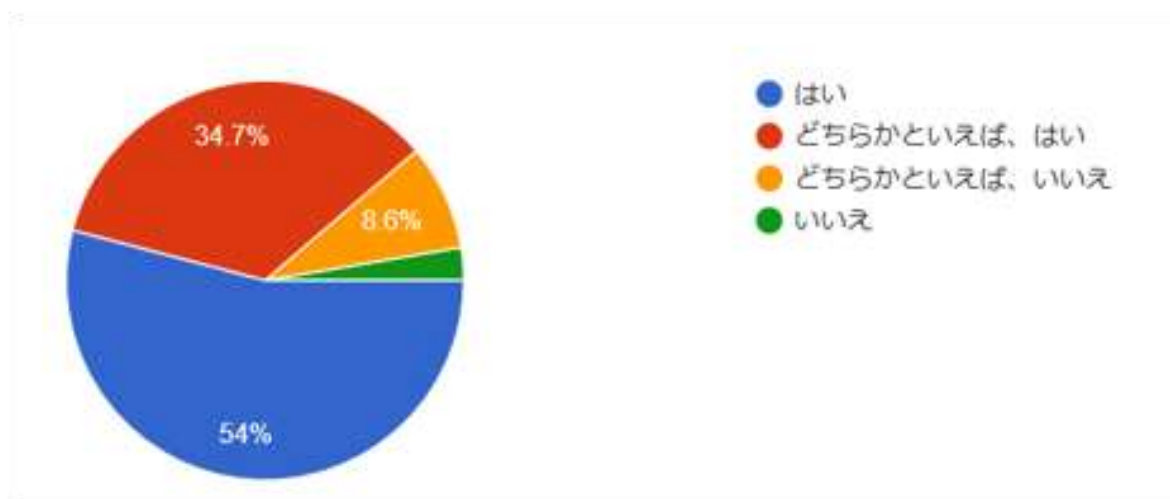
Q22.保護者の方にお伺いします。Q21で1・2と答えた方は、主にどんなことをほめていますか。(複数回答可)



このアンケート結果からは、親が子どもの努力や社会性を高く評価していることがわかります。特に「努力をほめる」という点が強調されており、勉強や運動などの目標に対する取り組みが重視されています。また、友達や他人のために行動したときやお手伝いをした際の評価も高く、子どもの社会性や協調性を大切にしていることが伺えます。

良い結果を出したときだけでなく、過程や行動そのものを認める姿勢が見受けられます。

Q23.保護者の方にお伺いします。あなたは、お子さんと「お子さんの将来の夢や目標」について話したことはありますか。



半数以上の保護者が子どもと将来の夢や目標について話し合っていることがわかります。全体では「はい」と「どちらかといえば、はい」を併せた割合が約9割で、保護者が何らかの形で子どもの将来について意見交換をしており、親子のコミュニケーションが活発であることが伺えます。学年別に見ると、その傾向は学年が進むにつれ強くなっていることが分かります。

一方で、少数派の保護者は話し合いが少ないという結果もあり、今後はより多くの保護者が子どもの将来に関心を持ち、積極的に会話を促すことが大切です。